

## 動向

## 中国における中日語彙対照研究の動向 2021

施暉

本稿は2020年下半期から2021年上半年期までの1年間における中日語彙対照研究の動向を概観することを目的とする。施暉(2020)と同じような方法で、まず「中国知網」を「中日」「日中」「概要」などのキーワードで検索したところ、中日語彙対照研究に関する論文を11本も選出できた。これらの論文はすべて中国学界で評判の高い、かつ言語学の最前線に立つ研究成果を掲載する『日語学習与研究』『東北亜外語研究』及び『高等日語教育』(王忻等2021: 42)に発表されたもので、研究内容の詳細は下表1の通りである。例年より論文の数は少々減っているが、先行研究と重複した論文を省略するほか、新型コロナウイルスによる学術活動の著しい制限が始まってから久しく『漢日語言対比研究論叢』は2021年度に出版しない運びとなったのがその主な原因であると考えられる。また、2021年度の中国政府の研究助成金の中に、中日語彙対照研究に関するテーマは一つもなかったことがやや残念である。

表1 2020-2021年中国における中日語彙対照研究の内訳

	数量	研究内容			
		文法・語構成	翻訳	意味	語史
学術論文	11	1	4	2	4

## 1. 学術論文

以下に大きく文法・語構成、翻訳、意味、語史に分けて、今回学術サイトから集めた論文を取り上げて中日語彙対照研究の動向を紹介する。

### 1.1 文法・語構成

史曼《汉日同形动词的构词与致使交替（中日同形動詞の語構成と相互交替）》は、中日同形の能格動詞を研究対象に、語構成と相互交替をめぐって考察を施した結果、両言語は以下の二点で顕著な共通性が察知できると論じた。まず、中日同形動詞の語構成は「動詞＋動詞」「修飾語＋動詞」「動詞＋名詞」「動詞＋形容詞」「名詞＋動詞」に分類できる。次に、中日両言語ともに相互交替のできるのは結果複合動詞だけである。

### 1.2 翻訳

王琰娟《基于语料库实例的易混中日同形词意义、用法辨析——以“事件”／「事件」为中心（コーパスに基づく混同しやすい中日同形語の意味及び使い方についての分析—“事件”／「事件」を中心に—）》という論文は意味、評価視点、対訳などの視座に立って、コーパスから集めた中国語の“事件”と日本語の「事件」に関する例文を比較、分析することによって、両言語の異同点を明晰化させようとしている。例えば、“事件”と「事件」はいずれも深刻な影響を及ぼした大きな出来事を指しうるが、日本語の「事件」の概念は中国語の“事件”より広く、日常生活に生じる些細な出来事にも適用できると述べている。

黄文溥《由书面翻译引发的语义演变——以“曾”字汉文训读词「カツテ」为例（翻訳によって生じる意味の変化—“曾”の漢文訓読語「カツテ」を例として—）》は、史料を取り上げながら、漢文出自の“曾”の日本語における転義プロセスについて、通時的な考察を加えた。意味論的等価という翻訳原則に厳しく従い、否定文と肯定文に用いられた“曾”は古代日本語で最初はそれぞれ「カツテ」と「ムカシ」と読まれていた。しかしながら、語用論

的等価の翻訳原則が機能しているため、肯定文でも「ムカシ」に取って代わって「カツテ」という訓読が多用されるようになり、最後に日本語で定着するようになったと説いている。

成玉峰・張萃《中日同形词词义衍变的翻译对比研究——以“工夫”/「工夫」为例（翻訳における中日同形語の意味の変化についての比較研究—“工夫”/「工夫」を例として—）》という論文は、コーパス検索の結果をもとに、中日同形語“工夫”/「工夫」の転義と対訳の実態を通時的に把握しながら、両言語の共通点と相違点を以下のように提示した。古代語の場合は、中国語の“工夫”と日本語の「工夫」は文体、「通仮」及び意味において著しい共通性を呈している。また、現代語に変遷しても、「物事に気力と時間をかける」という意味は残っている反面、「役夫」と「作業」の意味は消えてしまったという点において両言語は共通している。しかし、両国の異なった社会文化の影響で、中国語の“工夫”と日本語の「工夫」は違った意味拡張を経て、前者は「造詣」、後者は「よい方法や手段を見つけようとして、考えをめぐらすこと。また、その方法や手段」という新たな意味が派生し、両者は好対照をなしていると言及した。

孫成崗・呉宏《中日应急对译词汇库的构建设想——以新冠疫情语境下的中日词汇对译为例（中日緊急時対應用語の相互翻訳コーパスの構築に関する提言—コロナ禍に関わる中日の用語相互翻訳を例として—）》は、新型コロナウイルスを背景に、緊急時用語対訳コーパスを構築することは喫緊の課題となっていると提言した。そのコーパスを構築する原則について、「緊急性と時効性」「適用性と実用性」「要点を際立せ、数は少なく内容は精選する」という大変示唆に富んだ指摘をした。また、新語や借用語、特定の概念と文化を表現する用語、専門用語等を翻訳するストラテジーについても、系統的かつ詳細に見解を述べた。

### 1.3 意味

段静宜《植物隐喻中“莲”的汉日对比研究（植物メタファーにおける「蓮」の中日対照研究）》は、概念メタファー理論に基づき、中日両言語におけ

る“蓮”/「蓮」に関するメタファーを「蓮は女性である」「蓮は愛情である」「蓮は君子である」及び「蓮は浄土である」に分類したうえで、中日両言語の共通点と相違点、しかも社会文化や思惟方法に現れている異同と特徴について分析、探求を試みた。

施暉・李凌飛《“動物比喻词汇”的汉日对比研究——以“性向词汇”中的“虫”族喻词为中心（中日両言語における「動物比喻語」についての対照研究—「性向語彙」における「虫」の比喻語を中心に—）》は、中日性向語彙における「虫」を含む比喻語について定量的に統計、分析、比較を行ったうえで、以下のことを浮き彫りにした。まず、中国人より日本人の方が積極的に「虫」の比喻語を対人評価に活用するが、ほとんどマイナス評価として使用されるのが両言語の共通点である。次に、両国ともに虫の小さいことと弱いことから連想し、作り出した比喻語を違った性向の人を喩えたり、評価したりする点では一致している。また、両言語ともに「～虫」という接尾辞の使い方が多数あるが、異なる語源の考察も明らかにした。

#### 1.4 語史

胡新祥《“投机”一词考源（「投机」の語源についての考察）》は、中日同形語“投机”/「投機」に関する例文を数多く集めたうえで、歴史言語学と対照言語学の研究方法を援用しながら両者の語源を遡った。その結果は主に以下のようなものである。まず、古代中国語における“投机”は「気が合う」と「機会に乗じる」という二つの意味がある。「気が合う」は仏教出自の意味であるのに対し、「機会に乗じる」は古代中国語固有の意味である。これは日本に取り入れられた後、明治時代の日本人に speculation の訳語として使用され、「機会に乗じて、短期間で利益を得ようとする行為」を意味する経済の術語となった。さらに、新たな意味が生成した「投機」は20世紀初頭にまた中国語に回流し、経済領域に使われるようになった。

朱京偉《日语借词进入汉语的时间溯源——以《申报》和其他5种清末报刊为例（日本語借用語が中国語に入った年代についての溯源—『申報』と他の5種類の清末新聞を例として—）》は、日本語由来の借用語と認められた

2196語について詳しく分析した結果、『申報』が創刊された1872年からすでに数多くの日本語が中国語に入ってきたが、『時務報』をはじめとする清末5種類の新聞において、その数が最高に達したと指摘した。

朱京偉《日语2+2型四字词对汉语构词法的影响——以19-20世纪之交的清末5报为例（日本語における2+2型の熟語が中国語の語構成に与えた影響について—19世紀末から20世紀初頭の清末までの5種類の新聞を例として—）》という論文は、清末5種類の新聞に用いられた四文字の日本語借用語をめぐって、中国人は清末に日本語から大量の四文字語彙を積極的に吸収し、そのまま使ったのみならず、日本語を真似ることによって、少量の四文字語彙も創造したことを明らかにした。

鄭艷《语言接触視閥下“重婚”的詞義演变（言語接触の視点から見る「重婚」の意味変化について）》は、法令を考察資料として、日本語における「重婚」の概念変遷を辿ったうえで、その言葉が中国語に回流したプロセスを解明した。「重婚」は古代中国語出自の借用語で、日本語に取り入れられた当初、「再婚」を意味していたが、1871年に公布された民法では「配偶者のある人が重ねて結婚する」ことを指すようになった。また「重婚」の新しい意味は1890年に日本語に定着し、同年『日本国志』を通じて中国語に「帰化」したという結果を得た。

## 2. 著書

彭広陸《日源新詞探微（中国語における日本語由来の新語についての探究）》（北京大学出版社、2020年）は、以下のような目次である。

零、日源新詞面面觀（代序）（日本語由来の新語（以下、日源新語とする）の諸相〈序に代えて〉）

壹、說“～族”（～族）

貳、說“～屋”（～屋）

參、說“問題”（問題）

肆、說“写真”（写真）

伍、说“蒸发”(蒸発)

陸、说“献金”(献金)

柒、说“过劳死”(過労死)

捌、说“料理”(料理)

玖、说“瘦身”(瘦身)

拾、说“友情出演”(友情出演)

拾壹、说“慰安妇”(慰安婦)

拾貳、说“人脉”(人脈)

拾叁、说“变身”“转身”“化身”“变脸”(変身、轉身、化身、変臉)

拾肆、说“自信满满”和“信心满满”(自信満々と信心満々)

出处一览(出典一覧)

后记(あとがき)

本書はコーパスに基づいた計量的調査を行い、多角的な視点から綿密に分析、比較を施したうえで日源新語の実態を明らかにしたものであり、特筆すべきところが多い。その主な内容は「日源新語の諸相〈序に代えて〉」からも十分に察知できる。具体的には以下の通りである。中日両国は一衣帯水の近隣であり、一葦で渡ることができる関係にある。地理上の優位性は両国間の文化接触に便利な条件を提供している。両国の文化接触とともに文化と深く結びついた両言語の接触も盛んになってきた。古代の中国語は文字、音韻、語彙などの面において日本語に全面的かつ深遠な影響を与えていた。特に日本人は漢字及び漢字から生まれた仮名をもって日本語を記録してきたため、日本語は文字のある言語になっている。また、千年以上にわたって途切れることなく漢字を使ってきたことは、人類の歴史上において重大な意味を持っている。漢字は中日間の言語接触における強力な手段と重要な推進力となっているのは、中国語と日本語の間で大量の借用語が存在することから見られる。借用語は中日各自の語彙を豊富多彩にさせる大きな役割を果たしている。

言葉は言語の三大要素の一つであると同時に、最も変化しやすい言語要素でもある。そのため、言葉は「時代の鏡」とも言われている。中国は改革開

放以降、他国との政治、経済、文化などの交流が頻繁になるにつれ、社会に巨大な変化が発生し、新しいものが次々と現れて、概念や物事を新しく表現するように要請された。このような流れの中で、新語の出現は後を絶たず、当該時期における中国語の主な特徴となった。異なる言語間の相互接触によって、新語は旧来の言葉を凌ぐ勢いを見せ、爆発的な人気を集めている。

中国語では新語とは何かについて、以下の定義がある。

- ①1919年以降、中国語に新たに登場した言葉を指す（符淮青1985: 170）
- ②1949年に中華人民共和国が成立して以降、中国語に新たに登場した言葉を指す（郭熙1993）
- ③1978年の改革開放以降、中国語に新たに登場した言葉を指す（劉吉艷2010: 7）

本書では外延の最も小さい観点③を採用している。

中国語の新語には、他の言語から入ってきた外来語が数多くあるが、日本語由来の外来語も含んでいる。日本語由来の新語はその数が多く、中国語に大きな影響を与えている。注意すべきことは、ここでいう「新語」は広義的なものということである。つまり、語形は固有のものであるが、新しい意味が派生している。このような新しい意味を持つ語も考察の対象となる。また、新語だけでなく、新たにできた接頭辞、接尾辞及び熟語なども考察の範疇にはいる。厳密に言えば「新語句」というべきであろう。

中国語と日本語の間で互いに語彙を借用する歴史は千数百年前にさかのぼることができる。古代から近代にかけて日本語は主に中国語から大量の語彙を借りてきて、音読みの漢字はすでに日本語の重要な構成部分となっている。一方、近代以降になると、中国人は日本語を取り入れて大量の語彙を作り出している。中国の歴史上には2回の借用高揚期がある。第1回は19世紀末から20世紀の初頭である。第2回は1978年の改革開放以降、特に1980年代から今までの40数年間である。言い換えれば、中日交流が活発になるに伴い、言葉の接触と融合の波に乗じて大量の日本語の語彙が中国語に流入してきたのである。2回の高揚期には顕著な差が見られ、表2のようにまとめられている。

表2 日本語の借用語に関する2回の高揚期の違い

区分	時期	動因	方法と手段	借用語の範囲	数量
第1回	19世紀末～ 20世紀の初頭	西欧の文化と 文明の吸収	洋書漢訳	自然科学 社会科学	大量
第2回	1980年代以降	日本の文化と 文明の吸収	マスコミ／イ ンターネット ／人の往来	衣食住／交通 ／抽象語彙と 概念	1回目には及ば ないが次第に増 加。衣食住に関 する日常用語が 多い

中国では改革開放以降、日本との交流が盛んに行われてきた。インターネットの普及やメディアの発達に伴い、アニメ、漫画などに代表される日本のポップカルチャーは中国を席卷するように流れ込んできた。このような新しい時期には、中国語が日本語から大量に借用した日源新語は、その背景にある社会的、心理的、言語的要因及び科学技術などの要素と関わっている。

一般的に、ある言語が他の言語から借用する言葉の数は、その社会の開放の程度及び異文化との接触の程度と正比例を成している。つまり、社会が開放的であればあるほど、または異文化との接触が多くなればなるほど、他の言語から語彙を借用しやすくなるのである。1978年の改革開放以降、外来文化は潮の湧くが如しで、中国人の外来文化に対する憧れ、また外来文化との接触などは、外来語由来の新語を大量に登場させる主な原因となっている。このような背景の中で、日源新語の輸入ブームを迎えた。

また、若者の視点から考えると、若者が新奇を追求し、陳腐な表現を嫌い、また個性に満ちた多彩なライフスタイルを創造していこうとする性格は、大量の新語を発生させた心理的要因の一つであろう。

さらに漢字は中日両国でそれぞれ千年以上もの発展を経ている。両言語はともに漢字を使うことで、語彙を借用する時に互いに書き換える必要がない。字形をそのまま借用できるので、語彙の創造には便利かつ簡単である。さらに、大量の新たな概念の導入は、日本語の借用語が大量に登場した言語面での直接的な要因となっている。その他、情報時代の到来及びネットワーク技術の発達などは、外来語定着のスピードに拍車をかけ、その激しい勢い

はいつの時代にも比べられない。

日源新語の種類については、以下のように分類できる。

(1) 言語単位による分類

①借用語

○毒舌(毒舌)、腹黒(腹黒い)、物流(物流)、和食(和食)

②接頭辞と接尾辞の借用(日本語由来の形態素)

a. 接頭辞

○初～(初)、激～(激)、暴～(暴)、全～(全)、超～(超)、問題～(問題)

b. 接尾辞

○～族(族)、～屋(屋)、～男(男)、～女(女)、～酱(ちゃん)、～桑(さん)

③熟語の借用

○自信满满(自信满满)、年中无休(年中無休)

○友达以上(友達以上)、恋人未满(恋人未滿)

(2) 音節数による分類

①単音節

○宅(宅)、萌(萌え)

②二音節

○熟女(熟女)、献金(献金)、绘本(絵本)、达人(達人)、援交(援助交際、略一援交)、人妻(人妻)

③多音節

○違和感(違和感)、脱北者(脱北者)、必杀技(必殺技)、少子化(少子化)、天然呆(天然ボケ)、喜好烧(お好み焼き)、茶碗蒸(茶碗蒸し)、乌冬面(うどん)

○日本料理(日本料理)、问题意识(問題意識)、高岭之花(高嶺の花)、人畜无害(人畜無害)、自信满满(自信满满)

(3) 品詞による分類

①名詞

- 熟女（熟女）、御姐（御姉）、忍者（忍者）、声优（声優）、絵本（絵本）、料理（料理）、玄关（玄関）、素颜（素颜）、民宿（民宿）

②形容詞

- 违和（違和）、毒舌（毒舌）、腹黒（腹黒い）、一级棒（一番素晴らしい）

③動詞

- 乱入（乱入）、秒杀（秒殺）、完敗（完敗）、逆袭（逆襲）、研修（研修）、买春（買春）、援交（援助交際、略一援交）、失格（失格）

④動詞、形容詞両方

- 宅（宅）

(4) 借用方式による分類

①音訳語

a. 漢字による翻訳

- 榻榻米（畳）、欧巴桑（おばさん）、卡哇伊（かわいい）、撒由娜拉／莎哟哪啦（さようなら）

b. 一部は漢字、一部は西洋文字による翻訳

- 卡拉 OK（カラオケ）

②音訳と意識の融合

- 一级棒（一番素晴らしい）、扒金库（パチンコ）

③音訳と意識の組み合わせた混訳語

- 乌冬面（うどん）

④借形語

a. 当て字の使用

- 寿司（寿司）、刺身（刺身）、天妇罗（天ぷら）

b. 漢字の意味を借用

- 古着（古着）、变身（変身）、写真（写真）、大赏（大賞）、异动（異動）、秒杀（秒殺）
- 新干线（新幹線）、人形烧（人形焼き）、不名誉（不名誉）、关东煮（おでん）、茶碗蒸（茶碗蒸し）、必杀技（必殺技）、小确幸（小確幸）、

一目惚 (一目惚れ)

○友情出演 (友情出演)、欲求不満 (欲求不満)、人間蒸発 (人間蒸発)

c. 一部の漢字は意味を表し、一部の漢字は意味を表さない

○回転寿司 (回転寿司)

(5) 語源による分類

① 純粋な日本語由来の新語

○萌 (萌え)、物語 (物語)、寿司 (寿司)、刺身 (刺身)、腹黒 (腹黒い)、カ哇伊 (かわいい)

② 二次借用語

○蒸発 (蒸発)

③ 回帰借語

○写真 (写真)、人気 (人気)、献金 (献金)、料理 (料理)

④ 一部は日本語由来、一部は外国語由来の新語

○カラ OK (カラオケ)

日本語の原語は漢字で書かれたものが多く、中国語に借用された場合は、そのまま使えばいい。言い換えれば、中国語は日本語を借用する時に語形をそのまま借用できる極便利な点がある。この特徴は西洋語からの借用語と比べものにはならない。

そのほか、日源新語が中国語の語彙体系に入る過程、日源新語の意味的変遷 (範囲の拡大と縮小、意味の変化、派生、転換など)、中国語化 (言語的受容)、日源新語と漢語固有語彙の共存、同形の日源新語と変容された日源新語との共存、日源新語は中国語への影響などの考究を行っている。

総じていえば、新しい時期に入って以来、中国語には他の言語より借り入れられた新語が数多く現れてきた。その中に日本語由来の借用語も多数ある。これらの日源新語は、古代の中国語が日本語に入って、新たな意味を賦与された後、また中国語に取り入れられたものもあれば、日本語固有の語彙が中国語に借用されたものもある。本書は著者の二十年近い日源新語という事例研究に対する段階的なまとめである。収録された各論文はそれぞれの日

源新語を考察対象とし、借用語の時期、意味、用法などを詳しく考察することによって、中国語に借り入れられた後の意味変遷および中国語に与えた影響などについて、多角的視点でかつ詳細に分析と検討を行った。この結果は中日語彙研究を補完するだけでなく、言語接触、対照言語学、社会言語学などにも役に立っている。

## おわりに

紙幅の関係により、詳細に紹介することができなかった論考がいくつもある。例えば、趙寅秋《汉日空间三维形容词的语义扩展对比研究（中日三次元空間における形容詞の意味拡大の比較研究）》（武漢大学出版社、2020年）、王莎莎《汉语网络外源词认识语义研究——以日源和英源为例（中国語のネット用語における外来語の認知的意味についての研究—日本語と英語出自の言葉例として）》（武漢大学出版社、2021年）などである。また、文献の内容の読み誤りなどもあり、御海容を願う次第である。

近年の中国政府の研究助成金の中では、中日対照研究に関するプロジェクトは日本語研究のそれに近く、第2位に達している。ここから中日対照研究は、なかんずく中日語彙対照研究は更なる発展、また多数の研究成果を上げていくことが強く期待される。さらに、「新文科時代」を迎える今日の中国では、今までの日本語を中心とした語彙研究は諸問題が顕在化しつつ、「横断型・融合型」の不足に輪をかけているのが現状である。今後、中日語彙対照研究は各領域の研究手法、特に現代的科学技術などを積極的に取り入れ、他の研究分野との融合を促すように努めていかななくてはならない。

## 参考文献

- 成玉峰・张辛（2021）《中日同形词词义衍变的翻译对比研究——以“工夫”/“工夫”为例》[J],《东北亚外语研究》第1期, pp.73-80.  
段静宜（2021）《植物隐喻中“莲”的汉日对比研究》[J],《高等日语教育》第7辑, pp.127-141.  
符淮青（1985）《现代汉语词汇》[M], 北京：北京大学出版社。

- 郭熙 (1993) 《汉语新语汇词典》[M], 南京: 江苏教育出版社.
- 胡新祥 (2021) 《“投机”一词考源》[J], 《高等日语教育》第7辑, pp.104-114.
- 刘吉艳 (2010) 《汉语新词群研究》[M], 上海: 学林出版社.
- 彭广陆 (2020) 《日源新词探微》北京大学出版社.
- 孙成岗·吴宏 (2020) 《中日应急对译词汇库的构建设想——以新冠疫情语境下的中日词汇对译为例》[J], 《日语学习与研究》第5期, pp.1-12.
- 史曼 (2020) 《汉日同形动词的构词与致使交替》[J], 《日语学习与研究》第6期, pp.44-52.
- 施暉 (2021) 「中国における中日語彙対照研究の動向 2020」[J], 『日中語彙研究』第10号, pp.187-203.
- 施暉·李凌飞 (2020) 《“动物比喻词汇”的汉日对比研究——以“性向词汇”中的“虫”族比喻词为中心》[J], 《东北亚外语研究》第4期, pp.29-37.
- 黄文溥 (2021) 《由书面翻译引发的语义演变——以“曾”字汉文训读词「カッテ」为例》[J], 《日语学习与研究》第2期, pp.10-18.
- 王灿娟 (2021) 《基于语料库实例的易混中日同形词意义、用法辨析——以“事件”/「事件」为中心》[J], 《东北亚外语研究》第1期, pp.43-50.
- 王忻等 (2021) 《中国的日语语言研究何去何从》[J], 《东北亚外语研究》第3期, pp.41-48.
- 朱京伟 (2020) 《日语借词进入汉语的时间溯源——以《申报》和其他5种清末报刊为例》[J], 《日语学习与研究》第4期, pp.1-10.
- 朱京伟 (2021) 《日语2+2型四字词对汉语构词法的影响——以19-20世纪之交的清末5报为例》[J], 《日语学习与研究》第2期, pp.1-9.
- 郑艳 (2020) 《语言接触视阈下“重婚”的词义演变》[J], 《日语学习与研究》第6期, pp.53-62.
- 赵寅秋 (2020) 《汉日空间三维形容词的语义扩展对比研究》[M], 武汉: 武汉大学出版社.
- 王莎莎 (2020) 《汉语网络外源词认识语义研究——以日源和英源为例》[M], 武汉: 武汉大学出版社.

施暉 Shi Hui 蘇州大学外国語学院教授 専門: 日本語学・日中言語文化比較